

平成 24 年 8 月 9 日制定

農業経営アドバイザー規約

(目的)

第 1 条

この規約は、日本政策金融公庫農林水産事業（以下「公庫」という。）が主催する農業経営アドバイザー研修・試験（農業経営上級アドバイザー試験を含む。）の合格者が遵守すべき必要な事項を定める。

(呼称の付与)

第 2 条

公庫は所定の研修・試験に合格した者に対して、合格証を授与するとともに、「農業経営アドバイザー」又は「農業経営上級アドバイザー」の呼称を付与する。

(名刺への表記)

第 3 条

アドバイザーの呼称を名刺等へ表示する場合には、以下の表記のみとする。

「日本政策金融公庫 農業経営アドバイザー試験 合格者」

ただし、農業経営上級アドバイザーについては、以下の表記のみとする。

「日本政策金融公庫 農業経営上級アドバイザー試験 合格者」

(アドバイザーの責務)

第 4 条

農業経営アドバイザー及び農業経営上級アドバイザー（以下「アドバイザー」という。）は、農業経営者への支援活動を適切に行うため、農業全般について常に専門知識、アドバイス能力の向上に努めなければならない。

また、上級アドバイザーは、他のアドバイザーの模範として常に行動するとともに、他のアドバイザーの指導・研修等を通じて、アドバイザー全体のレベルの底上げに努めなければならない。

第 5 条

アドバイザーは、アドバイスの過程で知り得たアドバイス先の秘密を守り、節度のある行動をとらなければならない。

第6条

アドバイザーは、公庫からの融資を斡旋するような言動など、農業経営者に対して誤解を与えるような行為は、一切行ってはならない。また、農業経営者に対する支援実施後に、当該農業経営者が公庫からの融資を受けた場合、かかる者に対し融資成約の成功報酬として金銭等の見返りを求めるような行為は、一切行ってはならない。

なお、農業経営者への支援活動に際し、公庫資金の具体的な借入相談を受けた場合には、速やかに管轄区域を担当する公庫支店へ連絡することとし、その後は公庫の担当職員が当該借入相談を受けるものとする。

第7条

アドバイザーは、農業経営者からの相談等に対しアドバイスを行う場合には、その内容が個人の見解であり、公庫の見解ではないことを明確にしたうえで行うものとする。

第8条

アドバイザーは、公庫若しくは他のアドバイザーの信用を傷つけ、又は公庫若しくは他のアドバイザーの不名誉となるような行為をしてはならない。なお、万が一、かかる事態が生じた場合においては、一切の責任はアドバイザーにあるものとし、アドバイザーの責任において問題を解決する。

第9条

アドバイザーは、資格・認可が必要とされるアドバイスについては、法の定める資格・認可を得ることなく、かかるアドバイスを行ってはならない。

(称号の使用権の喪失)

第10条

アドバイザーが次の各号の一つに該当する場合には、その称号の使用権を喪失する。

- (1) この規約に違反した場合。
- (2) 公庫への提出書類に虚偽が認められた場合。
- (3) 法令に違反する行為又は業務停止の理由となる行為をした場合。ただし、公訴提起又は業務停止処分等が取消されても資格剥奪を妨げるものではない。

なお、業務停止とは、政府又は業界の自己規制機関により、懲戒の処分として、弁護士、公認会計士、税理士、不動産鑑定士、中小企業診断士、宅地建物取引主任者、社会保険労務士、その他の国家資格又は準国家資格について、業務停止を受けることをいう。

- (4) その他公庫が農業経営アドバイザー審査会に諮問し、了承を得た場合。

2 前項によるほか、アドバイザーの称号の使用権は次の場合に喪失する。

- (1) アドバイザーが死亡した場合。
- (2) アドバイザー本人から抹消の申請があった場合。
- (3) アドバイザー合格証の有効期間が満了し、その延長を希望しない場合。

第 11 条

前条においてアドバイザーの称号の使用権を喪失した場合、アドバイザーはその称号をいっさい使用してはならない。また、これらのことにより不利益が生じても公庫は一切責任を負わない。

(登録事項の変更)

第 12 条

アドバイザーは、住所等登録内容に変更が生じた場合は、所定の様式によりすみやかに公庫または制度運営機関に届け出なければならない。

(有効期間)

第 13 条

アドバイザー合格証の有効期間は5年間とする。なお、この延長を希望する者に対しての要件・手続き等については別に定める。

(規約の変更)

第 14 条

この規約は、農業経営アドバイザー審査会の審議によって変更することができる。

附 則

1. この規約は、平成 24 年 8 月 9 日から適用する。